

基肄城築造1350年

基肄城を知る ⑮

— 基山山頂にそびえる

天智天皇欽仰之碑 —



基山町のシンボルでもある基山は、町内の大部分のどこからでも見ることができます。その頂上部をよく見てみてください。

に、多くの方々に基山を来訪してもらいたいという目的もあつたようです。

た。

実際に塔を建てる工事にあつては、基山村の住民の方々も参加されています。塔の材料

となる砂などを袋に詰め、それを担いで山頂まで人力で運んだそうです。

た。休憩所（避難所）は、天智天皇欽仰之碑の南側にあり、正面入口中央の頭上には、「通天洞」と書かれています（写真3）。建設時は、1階部分の窓にはガラスも張られていました。この建物は一時に数百人を収容することが可能とされ、登山者が山頂で風雨に遭遇した場合の避難や休憩のために造られました。現在は2階建てになっており、上部は展望スペースになっています（現在、老朽化のため、原則立入禁止になっています）。

ようです。計画の決議、趣意書の発表、起工式、竣工式はどれも6月10日に行われています。6月10日は「時の記念日」で、天智天皇の時代に、日本初の時計が鐘を打った日とされることから制定されたものです。日付までこだわるところからみても、建設に携わった方々の熱意がうかがえます。

これらの一連の建造物は、基肄城を知ってもらい、守っていくという、昔からの思いを今に伝える貴重な文化遺産です。

※問合せ先

教育学習課

ふるさと歴史係

電話92-2200

「写真1」が「天智天皇欽仰之碑」です（写真2）。

天智天皇欽仰之碑は、今から約80年前の昭和8（1933）年に建てられました。基肄城にゆかりのある中大兄皇子、後の天智天皇の偉業を讃えるとともに

当初は、天智天皇の銅像を建てる計画でしたが、諸事情により、銅柱へと変更になったようです。また、建設にかかる費用は、寄附金によるものであり、佐賀県内を中心に各地から集まりました。

また、この欽仰之碑は、天智天皇の母である斉明天皇が、亡くなった地を望んでいるともいわれています。白村江の戦いに行く兵士たちの士気をあげるために、斉明天皇が九州まで出向きますが、病気のため亡くなつてしまします。その場所とされるのが朝倉 橘 広庭宮であり、正確な位置は確定しておりませんが、推定地は現在の朝倉市にあり、その方向を向いているといわれています。

天智天皇欽仰之碑が建てられた同じ時期に、「休憩所（避難所）」と「展望台」も造られました。

天智天皇欽仰之碑が建てられた同じ時期に、「休憩所（避難所）」と「展望台」も造られました。

天智天皇欽仰之碑が建てられた同じ時期に、「休憩所（避難所）」と「展望台」も造られました。



写真1 基山頂上部を南から望む
(中央に見えるのが天智天皇欽仰之碑)



写真2 天智天皇欽仰之碑

天智天皇欽仰之碑が建てられた同じ時期に、「休憩所（避難所）」と「展望台」も造られました。

天智天皇欽仰之碑が建てられた同じ時期に、「休憩所（避難所）」と「展望台」も造られました。



写真3 通天洞